

海域	経過 (4～5月)	現況(6月上旬～ 6月中旬)	見通し (7月～8月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水総研発表)	・定地水温:4月～5月はやや高め～高めで経過した。	・定地水温は高め～極めて高め。 ・6月の津軽暖流の各層水温は表層、50m層で極めて高め、100m層でやや高め。水塊深度は極めて深め、東方への張り出しは平年並み(太平洋海洋観測結果)。 ・6月の対馬暖流の各層水温は表面でやや高め、50m層及び100m層で平年並み(日本海海洋観測結果)。	・津軽暖流域の水温は平年並み～高めで推移する。	・FRA-ROMSによると、7月は表層で極めて高めと予測されているが、50m層以深では平年並み～低めと予測されている。 ・津軽暖流の張り出しは弱め傾向がみられる。	特になし。
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	【4月】(4/10～12) 《表面水温》 10海里以内は黒埼定線が8～11℃台、トドヶ崎、尾崎、椿島定線が14～17℃台であり、黒埼0海里で「やや高い」以外は「極めて高い」となった。 20～50海里は、10～18℃台であり、全ての定線で「極めて高い」となった。  《100m深水温》 10海里以内は黒埼定線で7℃台、トドヶ崎、尾崎、椿島定線で12～14℃台であり、黒埼定線で「平年並」以外は「極めて高い」となった。 20～50海里は7～17℃台であり、黒埼定線で「やや高い」～「極めて高い」、トドヶ崎、尾崎、椿島定線で「極めて高い」となった。  【5月】(5/9～10) (時化の影響で、黒埼、トドヶ崎、尾崎定線は0～20海里、椿島定線は0～40海里を観測)  《表面水温》 10海里以内は10～18℃台であり、黒埼定線で「平年並」～「やや高い」、トドヶ崎、尾崎、椿島定線で「極めて高い」となった。 20～40海里は、13～18℃台であり、全定線で「極めて高い」となった。  《100m深水温》 10海里以内は8～12℃台であり、黒埼定線で「平年並」～「やや高い」、トドヶ崎、尾崎、椿島定線で「高い」～「極めて高い」となった。 20～40海里は9～14℃台であり、「やや高い」～「極めて高い」となった。	【6月】(5/30～31、6/6) 《表面水温》 10海里以内は11～13℃台であり、「平年並」～「高い」となった。 20～50海里は、11～18℃台であり、「平年並」～「極めて高い」となった。  《100m深水温》 10海里以内は9～10℃台であり、椿島定線で「平年並」、黒埼、トドヶ崎、尾崎定線で「やや高い」～「高い」となった。 20～50海里は4～14℃台であり、黒埼、トドヶ崎、尾崎定線で「平年並」～「やや高い」、椿島定線で「やや高い」～「極めて高い」となった。	【7月】 100m深水温は黒埼定線の全定点で「平年並」、トドヶ崎、尾崎、椿島定線の全定点で「やや高い」、10m深水温は「やや低い」～「極めて低い」と予測された。	農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」において開発した、水温経験的予測システムを用いて解析した。	・4月に定置網においてカツオが大船渡で22kg、山田で35kg漁獲された。 ・大船渡から宮古の定置網において、マダイが豊漁で、4月の5港合計は14トン、5月の5港合計は48トンであった。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	北偏している黒潮続流が宮城県沿岸から沖合へ離れていく傾向にあります。沿岸の表面水温は16～18℃で昨年よりも高く、高め～極めて高めで推移した。  100m深水温は4月が14～16℃台、5月が12～13℃台で極めて高い水温であったが、降温傾向が見られた。	黒潮続流が沖合へ離れたことにより100m以深で降温傾向が継続し、宮城県沿岸の100m深水温は概ね10℃台でやや高めであった。  表面水温は依然として高い傾向が続いている。	表面水温は平年より高めで推移する見込み。  100m深水温は平年並み～やや高めの見込み。	偏差持続モデルによる。 気象庁「日別海面水温」・FRA-ROMS II 参照	
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水海セ発表)	【4月】 《100m深水温》 北部沿岸は「極めて高い」 中部沿岸は「極めて高い」 南部沿岸は「極めて高い」 黒潮続流は塩屋埼定線・富岡定線の距岸30海里に確認された。  【5月】 北部沿岸は「極めて高い」 中部沿岸は「極めて高い」	【6月】 《100m深水温》 海洋観測実施後に追記予定。(6/18-19実施予定)	【7月】 「やや高い」～「高い」  【8月】 「平年並み」～「やや高い」	FRA-ROMS II の予測によると、7月の福島県海域142°00'E以西における100m深水温は、平年差+3℃～+4℃の領域が大半を占めており、「やや高い」～「高い」に相当している。  FRA-ROMS II の7月の100m深水温予測において、黒潮系	【海況】 令和6年1月～5月の期間における100m深の水温平年差が+4.7℃以上となり、水温の高め基調が継続している

	<p>南部沿岸は「極めて高い」</p> <p>※北部:37° 50'N 中部:37° 25'N 南部:37° 00'N</p> <p>※4月の鵜ノ尾埼定線の観測は距岸50海里以内の定点のみ(通常70海里)。また、5月の塩屋埼定線、富岡定線の観測は距岸50海里の定点のみ。</p>			<p>暖水が波及していることから、水温の高い状態が継続すると考えられる。8月の予測では、黒潮系暖水が波及しているものの、黒潮続流の北限緯度が7月と比較して南下している。また、本県海域に親潮系水が波及することが見込まれることから、7月より低い水温になると考えられる。</p> <p>気象庁の「海面水温・海流1か月予報」(令和6年6月10日発表、対象期間6月11日～7月10日)によると、本州東方の海面水温は「平年より高いか、かなり高い」とされている。</p>	<p>る。</p> <p>(平年値: 1991年1月～2022年12月における100m深の水温平均値)</p>
<p>常磐南部～鹿島灘(茨城県沿岸; 茨城水試発表)</p>	<p><b>【4月】</b> 黒潮の反流の影響を受け、平年と比較すると、0～100m深では「平年並～高め」、200m深では「平年並～極めて高め」となった。</p> <p><b>【5月】</b> 黒潮の接岸の影響を受け、平年と比較すると、141° 45'E以西の沿岸域では「平年並～高め」、141° 45'E以東の沖合域では「高め～極めて高め」となった。</p>	<p>黒潮の本流は離岸したが、沿岸に黒潮から分岐した暖水が流入したことにより、鹿島以北の141° 15'E～141° 45'Eでは「平年並～やや高め」、その他では「やや高め～極めて高め」となった。</p>	<p>黒潮からの暖水の影響を受ける本県沿岸域と黒潮本流が流れる本県沖合域および本県南部は「やや高め～高め」、本県北部海域の141° E以東では部分的に冷水の影響を受け「平年並～やや高め」で推移する見込み。</p>	<p>海洋観測結果、気象庁「海洋の健康診断表」、FRA-ROMS IIによる。</p>	

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+3.3℃～	+3.8℃～	+6.1℃～	+5.8℃～	+4.9℃～	+6.1℃～
高い(7.5%)	+2.2～+3.2℃	+2.4～+3.7℃	+3.9～+6.0℃	+3.8～+5.7℃	+3.2～+4.8℃	+4.0～+6.0℃
やや高い(20%)	+0.9～+2.1℃	+1.0～+2.3℃	+1.6～+3.8℃	+1.5～+3.7℃	+1.3～+3.1℃	+1.6～+3.9℃
平年並(40%)	+0.8～-0.8℃	+0.9～-0.9℃	+1.5～-1.5℃	+1.4～-1.4℃	+1.2～-1.2℃	+1.5～-1.5℃
やや低い(20%)	-0.9～-2.1℃	-1.0～-2.3℃	-1.6～-3.8℃	-1.5～-3.7℃	-1.3～-3.1℃	-1.6～-3.9℃
低い(7.5%)	-2.2～-3.2℃	-2.4～-3.7℃	-3.9～-6.0℃	-3.8～-5.7℃	-3.2～-4.8℃	-4.0～-6.0℃
極めて低い(2.5%)	-3.3℃～	-3.8℃～	-6.1℃～	-5.8℃～	-4.9℃～	-6.1℃～

1991年1月～2020年12月の100m深度の観測水温を基に階級区分している